



# 夢に向かってまっすぐに

令和2年7月2日 (No.17)



## ゆうぐれの 泰山木の白花は われのなげきを おほうがごとし

齋藤 茂吉「つゆもじ」より

6月1日の学校再開から、1か月が経ちました。長期に渡った臨時休業後、まずは学校生活のリズムを安定させることを重点としてきました。また、その上で子供たちの様子をよく見取り、特に心理面で抱えていることに気を配りながら、学級・学校経営を進めているところです。お子様の様子はいかがでしょう。気になることがございましたら、どうぞ遠慮なくご相談いただければと思います。



▲「朝の手洗い声掛けボラティ」に感謝！

さて、表題は、齋藤茂吉がスペイン風邪にかかり、入院したときに詠んだ歌です。スペイン風邪の流行は、当時も世界的なパンデミックを引き起こし、多くの貴い命が失われてしまいました。その病にかかってしまった茂吉の悲哀はいかばかりかと察するに、胸が痛みます。そのような状況にあって、病室の窓から夕暮れの中に見えた泰山木の白い花は、深い悲しみさえも包み込んでくれるほど美しく、心が癒やされた…という意味になるでしょうか。

学校再開後の職員の言葉です。「子供たちがいるって、いいですね。力が湧いてきました！」「子供たちが、学校が始まるのが楽しみだったって言ってたんですよ。」などなど…職員室でうれしい言葉をたくさん聞くことができました。今回の新型コロナウイルスの影響によってできなくなったこと、我慢を強いられることが多くなったのも事実です。一方で、毎日当たり前のことのようにしてきたことが当たり前でなく、本当はとても幸せなことだったと気付くこともまた、多くあったのではないのでしょうか。子供たちの笑顔に接してほっとしたり、力をもらったり、教職員にとって子供たちが泰山木の白花であり、子供たちにとっては、私たちや保護者の皆様、そのような存在であるのかもしれない。

新しい生活様式の中、新型コロナウイルスとの共存の時代に入っています。感染症対策による様々な制約に加え、新しい学級での友達や担任との関係づくり、学習内容の習得等も同時進行となります。学校・家庭・地域、それぞれの立場から子供たちの姿を見取り、共有しながら、この難局を乗り切っていきたいと思えます。家庭との連携した取組も徐々に進めて参ります。ご理解とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

## 「大丈夫？」と声を掛けてくれる人を増やしていけばいい

新型コロナウイルスが及ぼす影響を懸念し、市教委でも新たな施策に取り組んでいます。中でも、子供たちの心身の健康を把握する取組は、とりわけ重要です。本校でも市の施策を踏まえ「教育相談アンケート」や「心と体の健康調査チェックカード」等、子供たちの心身の状況把握を定期的に行っていきたいと考えています。

タイトルは、イギリスの映画監督、ケン・ローチ氏（84歳）の言葉です。映画界で国際的に名誉ある数々の賞を受賞したローチ氏が、NHK ニュースの中で、コロナ禍の困難を乗り越えるために必要なことについて、次のように語っています。「これまでは、すれ違っても忙しくて会話もしなかったのに、今は『何か必要なものは？』『手伝いましょうか？』と声を掛け合うようになった。…この困難を切り抜けるためには、信頼できるものを見つけ出すことが大切だ。ドアをノックして『大丈夫？』と声をかけてくれる人。そんな人を私たちは信頼できる。」と。

市の施策や学校の取組を通して、子供たちが自ら自分の心身の状態に目を向けられるようにしたいと考えています。また、ご家庭でも学校でも子供たちに目を掛け、「大丈夫？」と声を掛け続けていくことで、お互いのことを思いやる子供たちを増やしていきたいと思っています。ソーシャルディスタンスが強調される中、心の距離は短く、保護者の皆様とも信頼できる関係でありたいと思えます。お力添えをよろしくお願いいたします。

## コロナ禍に学ぶ ～付けたい力…～

今回の新型コロナウイルスの影響への対応は、前例がない上に限られた情報をもとに考えざるを得ないことも多く、学校はもちろんですが保護者の皆様お一人お一人、それぞれの立場でご苦労が多かったことと思えます。いまだその渦中ではありますが、経験のない状況に想像力・創造力を振り絞って、「行事はどうする？優先してやらなければならないことは？こう対応したらどんな問題が生じる？」等々…教職員と検討する日が続きました。

昨日は、とても湿度が高く校舎1階の廊下は技師さんが何度拭いても、すぐに結露で濡れてしまう状況でした。給食準備開始の直前、主幹教諭が「今日はとても湿気が多くて、床が滑りやすくなっています。こんな時は、どのようなことに気を付けたらいいでしょうか…」と校内放送で呼び掛けました。子供たちのイメージの中には、きっと「廊下は歩く。」「転ばないようにゆっくり移動する。」という姿が思い浮かんだことと思えます。

時々「うちの駐車場にごみを捨てていく子がいる！」というような声をいただくことがあります。自分の行為がどのようなことにつながるか、相手の身に置き換えたらと考えるにも想像力が必要です。失敗を経験とし、未だ経験のない事にも対処できる力も付けたい力の一つです。日々、小さいことを積み重ねて参ります。



▲新たな発想で「ビノソ球」